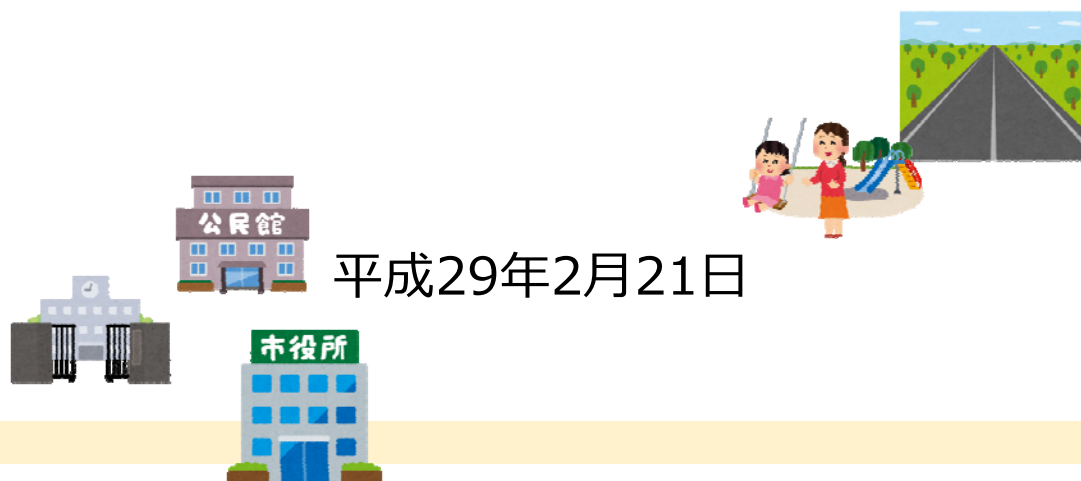


第4回 公共施設再配置計画 策定検討委員会



議 案

1. 施設評価の方法と結果について (市域施設)

統合、機能集約

福祉センター（錦溪苑）

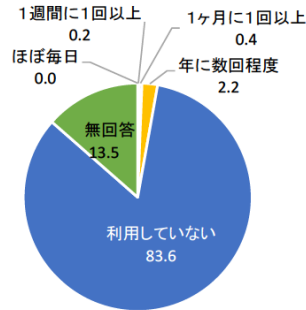
概ね60歳以上の人と介護者、障がい者と介護者および母子家庭の母子を対象とする施設。浴場や貸室の利用が可能なほか講座等の開催や、サークル活動室等の貸出しを行っている。

利用用途別	利用件数	利用人数	利用時間	利用料金
利用用途別	1.1	2	0	1.1
利用用途別	1.1	2	0	1.1
利用用途別	1.1	2	0	1.1
利用用途別	1.1	2	0	1.1
利用用途別	1.1	2	0	1.1
利用用途別	1.1	2	0	1.1
利用用途別	1.1	2	0	1.1
利用用途別	1.1	2	0	1.1
利用用途別	1.1	2	0	1.1
利用用途別	1.1	2	0	1.1

利用用途別分類＝福祉施設（保育所等）



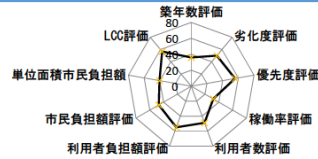
【福祉施設】



<意向調査による利用状況>

施設名：福祉センター（錦溪苑）

1次評価



健全度評価の偏差値		43.0（平均未満）			
活用度評価・財務評価の偏差値		47.9（平均未満）			
評価指標	平成26年度	偏差値	平均	備考	
①築年数評価	40	年	36.0	21.1	年
②劣化度点数評価		点	50.0		点
評価値			43.0		
評価指標	平成26年度	偏差値	平均		
③優先度評価	50.0	—	55.8	40.4	—
④稼働率評価	31.0	%	31.9	57.2	%
⑤利用者数評価	66.9	%	48.8	90.2	%
評価値			45.5		
評価指標	平成26年度	偏差値	平均		
⑥利用者負担額評価	45	円/人	54.9	281	円/人
⑦市民負担額評価	129	円/人	47.0	103	円/人
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	6,930	円	40.4	7,041	円
⑨LCC評価	25,700	円/㎡	56.7	62,100	円/㎡
評価値			49.8		

施設名：福祉センター（錦溪苑）

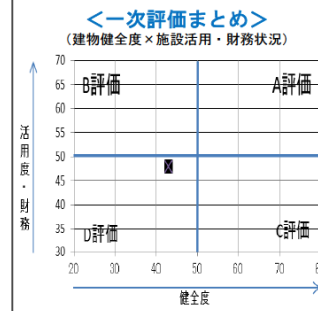


2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか	ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ア、運営主体である必要性は低い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	ウ、増加が見込まれる
		⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
	(2) 互換性	⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ア、存在する
		⑩民営化が可能な施設か	ウ、不可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	イ、検討の余地あり
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ウ、不可能

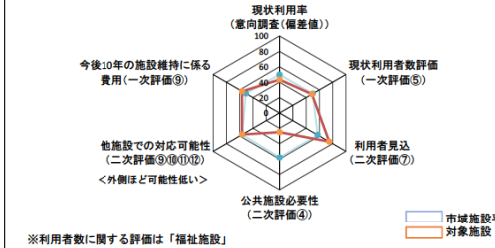
施設名：福祉センター（錦溪苑）

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用）



3次評価

建物の評価	現状維持	理由	建築から40年を経過し、1次評価の健全度評価においても平均未満となっているが、平成9年度に内外装や設備の改修工事を実施している。このため早期に大規模な改修の必要はないが、改修後10年以上経過しているため、今後も必要な修繕等を行いながら現状を維持する必要がある。
		今後の方向性	当面は必要な修繕等を行いながら現状を維持するが、平成27年9月に策定した「公共施設等総合管理計画」に基づき、公民館やコミュニティセンターなど施設機能や利用内容の重複が多い施設については、稼働状況や採算性等を考慮し統廃合や複合化、管理・運営の見直しを検討する。
機能の評価	再編（統合・集約）	理由	1次評価において活用度及び財務評価共に平均未満である。高齢者の生きがいづくりの場を提供する場として重要な施設であり今後も維持していくが、地域福祉センターにも同様の入浴施設があり、地域福祉センターの入浴機能のあり方についての検討を行なった後、地域福祉センターの入浴機能を福祉センターへ集約するなどの見直しについて、検討する必要がある。
		今後の方向性	平成27年9月に策定した「公共施設等総合管理計画」に基づき、公民館やコミュニティセンターなど施設機能や利用内容の重複が多い施設については、稼働状況や採算性等を考慮し統廃合や複合化、管理・運営の見直しを検討する。

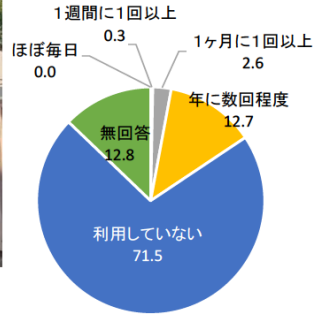
休日急病診療所

土・日・祝・年末年始における急病患者への対応を行っている。内科、歯科の診療を受け付ける。

利用用途別分類＝福祉施設（保育所等）



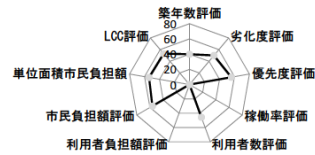
【医療・健康施設】



＜意向調査による利用状況＞

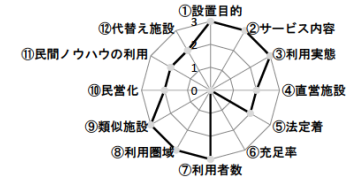
施設名：休日急病診療所

1次評価



健全度評価の偏差値				45.0（平均未満）			
活力度評価・財務評価の偏差値				52.9（平均以上）			
健全度 評価	評価指標	平成26年度		偏差値	平均		備 考
	①築年数評価	35	年	39.9	21.1	年	築年数を偏差値化
	②劣化度点数評価		点	50.0		点	実態調査に基づく劣化状況の点数を偏差値化
	評価値			45.0			
活力度 評価	評価指標	平成26年度		偏差値	平均		
	③優先度評価	50	—	55.8	40.4	—	公共建築物としての必要性や公益性を勘案し、マネジメントの優先度を偏差値化
	④稼働率評価	—	%	—	57.2	%	利用件数÷可能コマ数を偏差値化
	⑤利用者数評価	4.2	%	45.7	90.2	%	利用者数÷全市民人口を偏差値化
	評価値			50.8			
財務 評価	評価指標	平成26年度		偏差値	平均		
	⑥利用者負担額評価	—	円/人	—	281	円/人	利用者1人当たりの利用料を偏差値化
	⑦市民負担額評価	18	円/人	56.3	103	円/人	各施設の年間光熱水費÷全市民人口を偏差値化
	⑧建物1㎡あたりの 市民負担額評価	3,241	円	54.0	7,041	円	各施設の年間光熱水費÷各施設延床面積を偏差値化
	⑨LCC評価	47,400	円/㎡	52.9	62,100	円/㎡	今後10年間の維持保全・更新費÷各施設延床面積を偏差値化
	評価値			54.4			

施設名：休日急病診療所

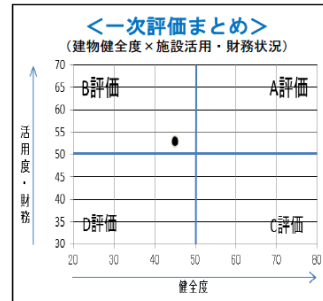


2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか	ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	イ、運営主体である必要性が低くなりつつある
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	イ、法定だが配置ではない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	ウ、増加が見込まれる
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ウ、存在しない
3. 代替性	民間参入の可能性	⑩民営化が可能な施設か	イ、検討の余地あり
		⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	イ、検討の余地あり
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	イ、検討の余地あり

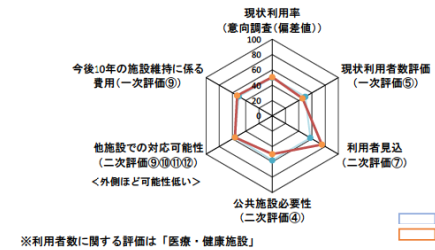
施設名：休日急病診療所

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況 × 公共施設としての必要性 × 維持管理必要費用）



3次評価

建物の評価	現状維持	理由	建築から約35年を経過し1次評価の健全度評価については平均未満である。平成18年度に大規模改修工事を実施しており、耐震性には問題はなく、緊急的に大規模な改修を行う必要もない。今後も必要な修繕等を行いながら現状を維持する必要がある。
		今後の方向性	しばらくは現状維持となるが今後の方向性などを検討する必要がある。
機能の評価	再編（統合・集約）	理由	1次評価において活力度評価、財務評価共に平均以上である。
		今後の方向性	管理運営方法の民営化等の見直しなど、今後の方向性を検討する必要がある。

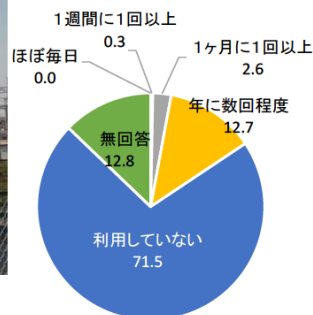
保健センター

市民に対し健康相談、保健指導および健康診査その他、地域保健に関する必要な事業を行っている。

利用用途別分類＝福祉施設（保育所等）



【医療・健康施設】



＜意向調査による利用状況＞

施設名：保健センター

1次評価



健全度評価の偏差値		46.9 (平均未満)	
活用度評価・財務評価の偏差値		54.4 (平均以上)	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	26・30 年	43.8	21.1 年
②劣化度点数評価	点	50.0	点
評価値		46.9	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	50	56.0	40.4
④稼働率評価	—	—	57.2
⑤利用者数評価	3	45.4	90.2
評価値		50.7	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	— 円/人	—	281 円/人
⑦市民負担額評価	5 円/人	57.6	103 円/人
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	584 円	59.5	7,041 円
⑨LCC評価	39,900 円/㎡	53.5	62,100 円/㎡
評価値		56.9	

施設名：保健センター

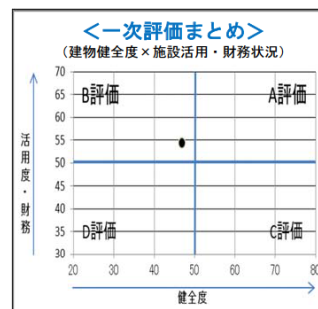


2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか	ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ウ、運営主体である必要性は高い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	イ、法定だが配置ではない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	ウ、増加が見込まれる
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ウ、存在しない
		⑩民営化が可能な施設か	ウ、不可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	ウ、不可能
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ウ、不可能

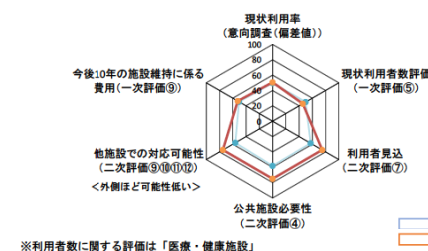
施設名：保健センター

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用）



3次評価

建物の評価	現状維持	理由	建築から約30年を経過し1次評価の健全度評価については平均未満である。平成18年度に大規模改修工事を実施しており、耐震性には問題なく、緊急的に大規模な改修を行う必要もない。今後必要な修繕等を行いながら現状を維持する必要がある。
		今後の方向性	しばらくは現状維持となるが今後の方向性などを検討する必要がある。
機能の評価	再編（統合・集約）	理由	1次評価において活用度評価、財務評価共に平均以上である。
		今後の方向性	管理運営方法の民営化等の見直しなど、今後の方向性を検討する必要がある。

フォレスト三田市（市民ホール）

定員200名の多目的ホールをはじめ、会議室の貸出を行っている。

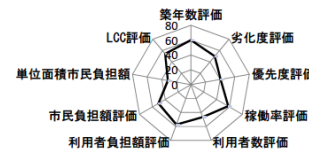
利用用途別分類＝福利厚生施設他



＜意向調査による利用状況＞
なし

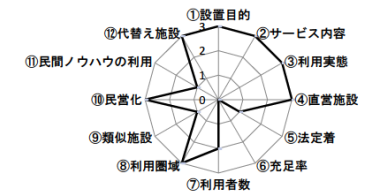
施設名：フォレスト三田市（市民ホール）

1次評価



健全度評価の偏差値		55.1（平均以上）	
活用度評価・財務評価の偏差値		48.4（平均未満）	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	10.0 年	60.1	21.1 年
②劣化度数評価	点	50.0	点
評価値		55.1	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	25.0	40.7	40.4
④稼働率評価	69.0 %	58.1	57.2 %
⑤利用者数評価	20.8 %	46.5	90.2 %
評価値		48.4	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	131 円/人	57.3	281 円/人
⑦市民負担額評価	95 円/人	50.6	103 円/人
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	24,641 円	31.6	7,041 円
⑨LCC評価	41,000 円/㎡	54.2	62,100 円/㎡
評価値		48.4	

施設名：フォレスト三田市（市民ホール）

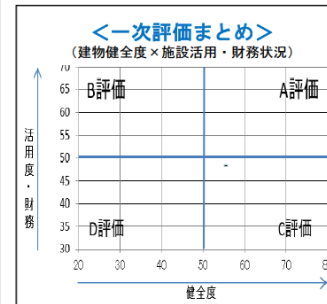


2次評価

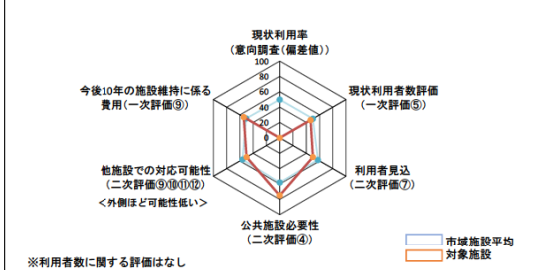
		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか	ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ウ、運営主体である必要性は高い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	イ、増加は見込まれない
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ア、存在する
		⑩民営化が可能な施設か	ウ、不可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	ア、可能
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ウ、不可能

施設名：フォレスト三田市（市民ホール）

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞ （現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用）



3次評価

建物の評価	現状維持	理由	建築から10年を経過しているが、1次評価の健全度評価については平均以上であり、緊急的に大規模な改修を行う必要はなく、耐震性も問題はないが、今後必要となる修繕等を行いながら現状を維持する必要がある。
	今後の方向性		※本施設は、三田市駅前西地区の再開発事業による施設建築物の一部であり、築後10年を経過しており目的外使用や賃貸、譲渡は可能であるが、いずれの場合も大阪府との協議が必要であり、また、有償での賃貸や譲渡の場合は国庫補助金の返納が必要である。
機能の評価	再編（統合・集約）	理由	1次評価において活用度評価及び財務評価共に平均未満である。貸し館としては稼働率は高い方であるが、指定管理委託料に比して、貸し館としての売り上げは高くない。利用料金の適正化に向けた再編（改善）を検討する必要がある。また、地域の拠点づくりに伴う三田市公民館などの機能分担等についても再編（統合・集約）についても併せて検討する必要がある。
	今後の方向性		※本施設は、三田市駅前西地区の再開発事業による施設建築物の一部であり、築後10年を経過しており目的外使用や賃貸、譲渡は可能であるが、いずれの場合も大阪府との協議が必要であり、また、有償での賃貸や譲渡の場合は国庫補助金の返納などの課題がある。

フォレスト三日市（情報コーナー）

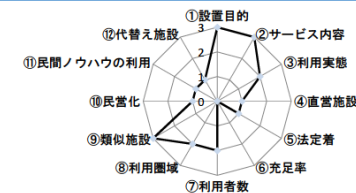
利用用途別分類＝福利厚生施設他



＜意向調査による利用状況＞
なし

施設予約、図書館の蔵書検索、生涯学習情報の検索、図書館返却ボックスの設置、各種パンフレットの設置を行っている。

施設名：フォレスト三日市（情報コーナー）



2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか	イ、あまり即していない
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ア、運営主体である必要性は低い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利便度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	イ、増加は見込まれない
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	イ、地域（主に中学校区を対象）
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ウ、存在しない
		⑩民営化が可能な施設か	ア、可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	ア、可能
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ア、可能

施設名：フォレスト三日市（情報コーナー）

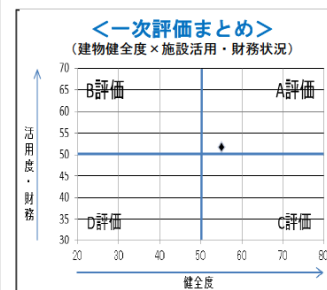


1次評価

健全度評価の偏差値				55.2（平均以上）				
活用度評価・財務評価の偏差値				51.7（平均以上）				
健全度 評価	評価指標	平成26年度		偏差値		平均		備 考
	①築年数評価	10.0	年	60.3	21.1	年	築年数を偏差値化	
	②劣化度点数評価		点	50.0		点	実態調査に基づく劣化状況の点数を偏差値化	
	評価値			55.2				
活用度 評価	評価指標	平成26年度		偏差値		平均		
	③優先度評価	25.0	—	40.7	40.4	—	公共建築物としての必要性や公益性を勘案し、マネジメントの優先度を偏差値化	
	④稼働率評価	—	%	—	57.2	%	利用件数÷可能コマ数を偏差値化	
	⑤利用者数評価	—	%	—	90.2	%	利用者数÷全市民人口を偏差値化	
	評価値			40.7				
財務 評価	評価指標	平成26年度		偏差値		平均		
	⑥利用者負担額評価	—	円/人	—	281	円/人	利用者1人当たりの利用料を偏差値化	
	⑦市民負担額評価	5	円/人	57.2	103	円/人	各施設の年間光熱水費÷全市民人口を偏差値化	
	⑧建物1㎡あたりの 市民負担額評価	2,452	円	54.8	7,041	円	各施設の年間光熱水費÷各施設延床面積を偏差値化	
	⑨LCC評価	41,000	円/㎡	54.2	62,100	円/㎡	今後10年間の維持保全・更新費÷各施設延床面積を偏差値化	
	評価値			55.4				

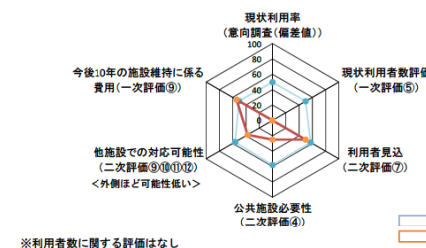
施設名：フォレスト三日市（情報コーナー）

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用）



3次評価

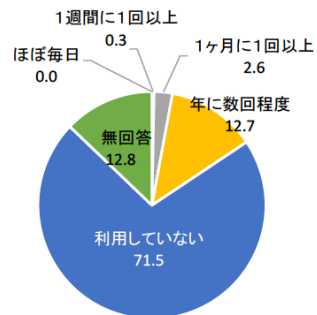
建物の評価	現状維持	理由	建築から10年を経過しているが、1次評価の健全度評価については平均以上であり、緊急的に大規模な改修を行う必要はなく、耐震性も問題はないが、今後も必要な修繕等を行いながら現状を維持する。但し、平成28年度をもって隣接する窓口センターの廃止が決まっており、当該部分の今後の活用の方針に基づき、情報コーナーについても再編（処分・譲渡又は貸付）について併せて検討することが必要である。※本施設は、三日市駅前西地区の再開発事業による施設建築物の一部であり、築後10年を経過しており目的外使用や賃貸、譲渡は可能であるが、いずれの場合も大阪府との協議が必要であり、また、有償での賃貸や譲渡の場合は国庫補助金の返納が必要である。
		今後の方向性	
機能の評価	再編（統合・集約）	理由	1次評価において活用度評価は平均未満であるが、財務評価は平均以上である。「市関連情報」を広く市民等に情報提供することを目的とし、無料開放しているが、実際の利用者は少なく、施設の利用状況面では課題がある。また、維持管理面の費用負担も大きいことから、当該部分の活用については、採算性を十分に考慮しながら、機能の再編（統合・集約）を検討する必要がある。
		今後の方向性	当該部分の今後の活用の方針については、再編（統合・集約）について検討することが必要である。※本施設は、三日市駅前西地区の再開発事業による施設建築物の一部であり、築後10年を経過しており目的外使用や賃貸、譲渡は可能であるが、いずれの場合も大阪府との協議が必要であり、また、有償での賃貸や譲渡の場合は国庫補助金の返納などの課題がある。

フォレスト三日市（乳幼児健診センター）

利用用途別分類＝福利厚生施設他



【医療・健康施設】



<意向調査による利用状況>

施設名：フォレスト三日市（乳幼児健診センター）

1次評価



健全度評価の偏差値		55.2 (平均以上)	
活力度評価・財務評価の偏差値		44.0 (平均未満)	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	10.0 年	60.3	21.1 年
②劣化度点数評価	点	50.0	点
評価値		55.2	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	25.0	40.7	40.4
④稼働率評価	— %	—	57.2 %
⑤利用者数評価	10.1 %	46.0	90.2 %
評価値		43.4	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	— 円/人	—	281 円/人
⑦市民負担額評価	141 円/人	47.2	103 円/人
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	24,445 円	31.8	7,041 円
⑨LCC評価	41,000 円/㎡	54.2	62,100 円/㎡
評価値		44.4	

施設名：フォレスト三日市（乳幼児健診センター）

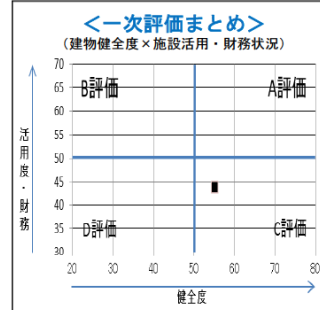


2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか	ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ウ、運営主体である必要性は高い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利便性	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	イ、増加は見込まれない
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ウ、存在しない
		⑩民営化が可能な施設か	ウ、不可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	ウ、不可能
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ウ、不可能

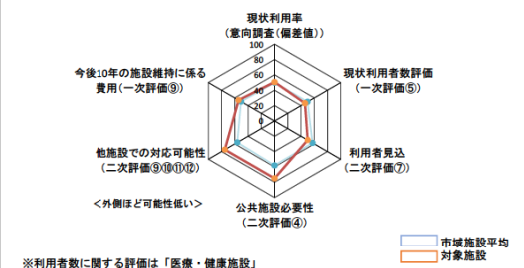
施設名：フォレスト三日市（乳幼児健診センター）

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用）



3次評価

建物の評価	現状維持	理由	建築から10年を経過しているが、1次評価の健全度評価については平均以上であり、緊急的な大規模な改修を行う必要はなく、耐震性も問題は無いが、今後も必要な修繕等を行いながら現状を維持する必要がある。
		今後の方向性	今後もしばらくは必要な修繕等を行いながら現状を維持する。
機能の評価	再編（統合・集約）	理由	1次評価において活力度評価、財務評価共に平均未満である。乳幼児の健康の保持・増進のために事業を行っており、事業目的は果たしているが、施設の利用状況からは、使用されていない日も多くあり、維持管理面での費用負担も大きいことから、当該部分の利活用については、採算性を十分に考慮しながら、機能の再編（統合・集約）を検討する必要がある。
		今後の方向性	当該部分の今後の利活用の方針に基づき、乳幼児健診センター機能について再編（統合・集約）について検討することが必要である。 ※本施設は、三日市駅前西地区の再開発事業による施設建築物の一部であり、築後10年を経過しており目的外使用や賃貸、譲渡は可能であるが、いずれの場合も大阪府との協議が必要であり、また、有償での賃貸や譲渡の場合は国庫補助金の返納が必要である。

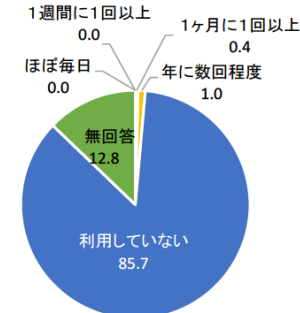
他施設に複合化・機能移転や集約

市民公益活動支援センター（るーぷらざ）

利用用途別分類＝福利厚生施設



【市民公益活動支援センター（るーぷらざ）】

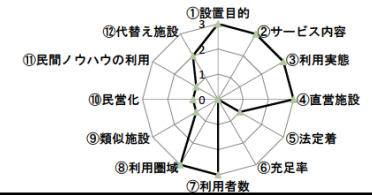


＜意向調査による利用状況＞

利用用途別	利用用途別	利用用途別	利用用途別	利用用途別
利用用途別	利用用途別	利用用途別	利用用途別	利用用途別
利用用途別	利用用途別	利用用途別	利用用途別	利用用途別
利用用途別	利用用途別	利用用途別	利用用途別	利用用途別
利用用途別	利用用途別	利用用途別	利用用途別	利用用途別

市内で市民公益活動を行うNPO法人やボランティア活動団体の活動を促進するための施設。会議室や貸事務ブース、交流スペース等がある。

施設名：市民公益活動支援センター（るーぷらざ）



2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか	ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ウ、運営主体である必要性は高い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	ウ、増加が見込まれる
		⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
	(2) 互換性	⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ア、存在する
		⑩民営化が可能な施設か	ア、可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	ア、可能
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	イ、検討の余地あり

施設名：市民公益活動支援センター（るーぷらざ）

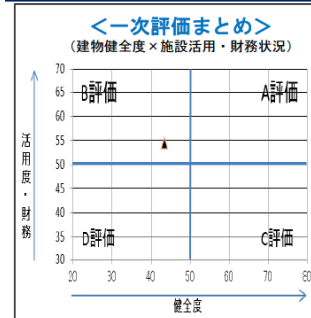
1次評価



健全度評価の偏差値		43.5（平均未満）	
活用度評価・財務評価の偏差値		54.4（平均以上）	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	39	年	37.0
②劣化度点評価	—	点	50.0
評価値		43.5	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	50	—	55.8
④稼働率評価	—	%	57.2
⑤利用者数評価	11.2	%	46.1
評価値		51.0	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	23	円/人	55.4
⑦市民負担額評価	6	円/人	57.1
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	2,141	円	55.1
⑨LCC評価	27,900	円/㎡	56.8
評価値		56.1	

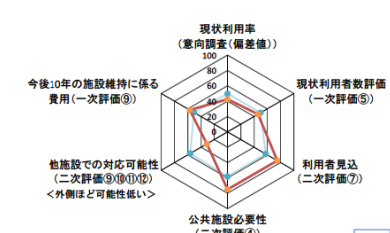
施設名：市民公益活動支援センター（るーぷらざ）

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用）



3次評価

建物の評価	再編（処分）	理由	今後の方向性
機能の評価	再編（統合・集約）	1次評価において活用度評価及び財務評価共に平均以上である。市民公益活動支援センターが、市民公益活動を支援し活性化を図るとともに、協働を促進し、公益の増進に寄与するという目的であるが、メイン事業はソフト事業である。施設統合の条件が整えば再編（売却・貸付）を検討する。	施設管理以外のソフト事業は引き続きノウハウを持つNPO法人等への委託を検討する。機能的には現状と同じであるが、市民交流センター（キックス）などの建物のスペースを複合化により共用化する（機能の移転）

フォレスト三田市（窓口センター）

利用用途別分類＝公用施設



＜意向調査による利用状況＞
なし

住民票の写し、印鑑証明、戸籍謄抄本
（平日のみ）の発行などを行っている。
平成29年3月末をもって廃止予定。

施設名：フォレスト三田市（窓口センター）



2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	イ. 低下しつつある
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ. 即している
		③利用実態が設置目的に即しているか	ウ. 即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ウ. 運営主体である必要性は高い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア. 義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	ア. 減少が見込まれる
		⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ. 広域（主に市域、市域外を対象）
	(2) 互換性	⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ウ. 存在しない
		⑩民営化が可能な施設か	ウ. 不可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	イ. 検討の余地あり
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ウ. 不可能

施設名：フォレスト三田市（窓口センター）

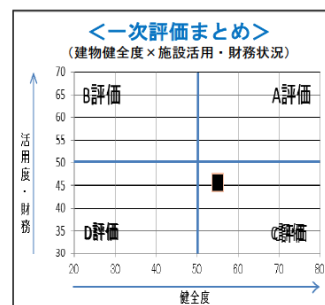


1次評価

健全度評価の偏差値				55.2（平均以上）				
活用度評価・財務評価の偏差値				45.5（平均未満）				
健全度 評価	評価指標	平成26年度		偏差値		平均		備 考
	①築年数評価	10.0	年	60.3	21.1	年	築年数を偏差値化	
	②劣化度点数評価		点	50.0		点	実態調査に基づく劣化状況の点数を偏差値化	
	評価値			55.2				
活用度 評価	評価指標	平成26年度		偏差値		平均		公共建築物としての必要性や公益性を勘案し、 マネジメントの優先度を偏差値化 利用件数÷可能コマ数を偏差値化 利用者数÷全市民人口を偏差値化
	③優先度評価	25.0	—	40.7	40.4	—		
	④稼働率評価	—	%	—	57.2	%		
	⑤利用者数評価	11.4	%	46.1	90.2	%		
	評価値			43.4				
財務 評価	評価指標	平成26年度		偏差値		平均		利用者1人当たりの利用料を偏差値化 各施設の年間光熱水費÷全市民人口を偏差値化 各施設の年間光熱水費÷各施設延床面積を偏差値化 今後10年間の維持保全・更新費÷各施設延床面積を偏差値化
	⑥利用者負担額評価	—	円/人	—	281	円/人		
	⑦市民負担額評価	22	円/人	55.9	103	円/人		
	⑧建物1㎡あたりの 市民負担額評価	25,785	円	30.4	7,041	円		
	⑨LCC評価	41,000	円/㎡	54.2	62,100	円/㎡		
	評価値			46.8				

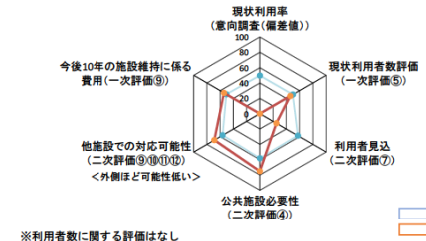
施設名：フォレスト三田市（窓口センター）

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用）



3次評価

建物の評価	再編（処分）	理由	今後の方向性
建物の評価	再編（処分）	理由	建築から10年を経過しているが、1次評価の健全度評価については平均以上であり、緊急的に大規模な改修を行う必要はなく、耐震性も問題はないが、窓口センター機能の廃止に伴い、早急に再編（処分…譲渡又は貸付）を検討することが必要である。
		理由	平成28年度をもって窓口センターとしての機能廃止を予定しており、早急に再編（処分…譲渡又は貸付）を検討することが必要である。
機能の評価	再編（統合・集約）	理由	今後の方向性
機能の評価	再編（統合・集約）	理由	平成28年度をもって窓口センターとしての機能廃止を予定しており、早急に再編（統合・集約）を検討することが必要である。
		理由	※本施設は、三田市駅前西地区の再開発事業による施設建築物の一部であり、築後10年を経過しており目的外使用や賃貸、譲渡は可能であるが、いずれの場合も大阪府との協議が必要であり、また、有償での賃貸や譲渡の場合は国庫補助金の返納が必要である。

解体・貸付・売却

児童療育支援プラザ

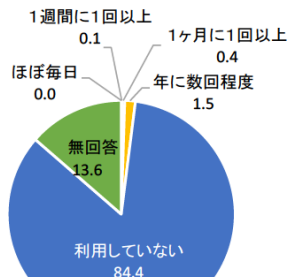
建物を市が所有し、民間業者に貸付けている施設。身近な地域で療育が必要な、障がいを持つ子どもなどへの支援を行っている。

利用用途別分類	施設利用件数	利用件数/延床面積	利用件数/人口	利用件数/世帯数
児童療育支援	1.1	2	0	1.0
児童療育支援	1.6	4	0	1.5
児童療育支援	6	10	2	8
児童療育支援	0	0	0	0
児童療育支援	2.2	7	4	4.5

利用用途別分類＝福祉施設（保育所等）



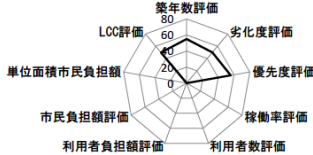
【障がい者福祉施設】



<意向調査による利用状況>

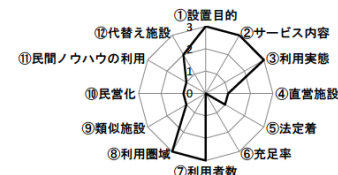
施設名：児童療育支援プラザ

1次評価



健全度評価の偏差値		52.5 (平均以上)	
活用度評価・財務評価の偏差値		52.8 (平均以上)	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	14 年	55.0	21.1 年
②劣化度点数評価	点	50.0	点
評価値		52.5	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	50	55.8	40.4
④稼働率評価	— %	—	57.2 %
⑤利用者数評価	— %	—	90.2 %
評価値		55.8	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	— 円/人	—	281 円/人
⑦市民負担額評価	— 円/人	—	103 円/人
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	— 円	—	7,041 円
⑨LCC評価	63,200 円/㎡	49.8	62,100 円/㎡
評価値		49.8	

施設名：児童療育支援プラザ



2次評価

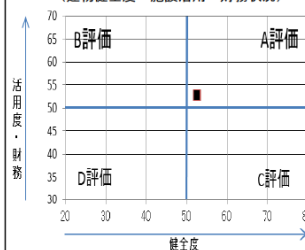
	項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか ウ、低下していない
	(2) 必要性	②サービス内容が設置目的に即しているか ウ、即している ③利用実態が設置目的に即しているか ウ、即している ④市が自ら運営主体として関与すべき施設か ア、運営主体である必要性は低い ⑤法律等により設置が義務付けされている施設か ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入） — ⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか ウ、増加が見込まれる
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか ウ、広域（主に市域、市域外を対象） ⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む ア、存在する
3. 代替性	民間参入の可能性	⑩民営化が可能な施設か ア、可能 ⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か ア、可能 ⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか イ、検討の余地あり

施設名：児童療育支援プラザ

1次評価・2次評価まとめ

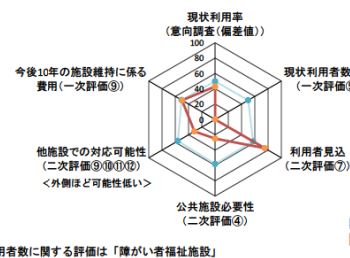
<一次評価まとめ>

(建物健全度×施設活用・財務状況)



<公共施設としての利用機能発揮可能性>

(現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用)



3次評価

建物の評価	再編(処分)	理由	建策から14年を経過しているが、1次評価の健全度評価については平均以上であり、緊急的に大規模な改修を行う必要はない。民間施設での事業実施が可能である。
機能の評価	再編(廃止)	理由	貸付契約完了の、平成30年3月31日を目途に、機能についても再編(廃止)を検討することが必要である。
建物の評価	再編(処分)	理由	貸付契約完了の、平成30年3月31日を目途に、機能についても再編(廃止)を検討することが必要である。

滝畑レイクパーク

利用用途別分類＝福利厚生施設

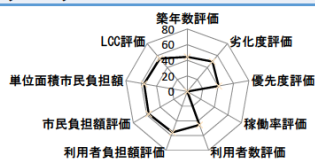


自然に親しみながら休養や健康増進を図ることで雇用の促進と安定を目指す施設として遊具や芝生広場、研修室等が整備されている。
(平成28年3月に閉鎖)

<意向調査による利用状況>
なし

施設名：滝畑レイクパーク

1次評価



健全度評価の偏差値		47.2 (平均未満)	
活用度評価・財務評価の偏差値		51.7 (平均以上)	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	30 年	44.3	21.1 年
②劣化度点数評価	— 点	50.0	— 点
評価値		47.2	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	25	40.7	40.4
④稼働率評価	— %	—	57.2 %
⑤利用者数評価	0.1	45.5	90.2
評価値		43.1	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	10 円/人	55.7	281 円/人
⑦市民負担額評価	4 円/人	57.2	103 円/人
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	1,159 円	56.2	7,041 円
⑨LCC評価	37,400 円/㎡	54.9	62,100 円/㎡
評価値		56.0	

施設名：滝畑レイクパーク

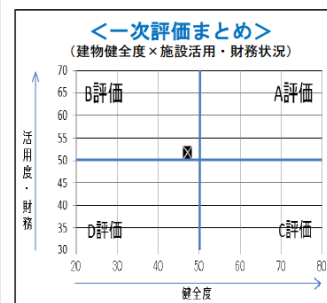


2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ア. 低下している
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ア. 即していない
		③利用実態が設置目的に即しているか	ア. 即していない
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ア. 運営主体である必要性は低い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア. 義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか (幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入)	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	ア. 減少が見込まれる
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ. 広域(主に市域、市域外を対象)
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ウ. 存在しない
		⑩民営化が可能な施設か	イ. 検討の余地あり
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	イ. 検討の余地あり
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ウ. 不可能

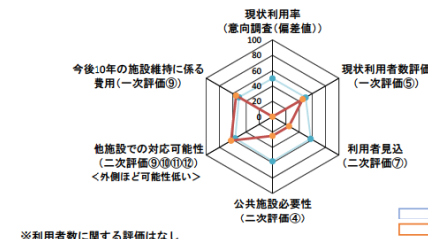
施設名：滝畑レイクパーク

1次評価・2次評価まとめ



<公共施設としての利用機能発揮可能性>

(現状および今後の利用状況 × 公共施設としての必要性 × 維持管理必要費用)



3次評価

建物の評価	再編(処分)	理由	建築から30年を経過し、1次評価の健全度評価については平均未満となっている。早急に大規模な改修の必要はなく、耐震性も問題はないが、レイクパークの廃止が決まっており、今後必要となる多額の維持更新費用を考慮すると、再編(処分)…民間への譲渡(売却)又は賃付を検討することが必要である。
	再編(廃止)	理由	施設の再編(処分)に併せ、機能についても再編(廃止)となる。
機能の評価	再編(処分)	理由	施設の再編(処分)に併せ、機能についても再編(廃止)となる。
	再編(廃止)	理由	施設の再編(処分)に併せ、機能についても再編(廃止)となる。